

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900277		
法人名	医療法人 社団福祉会		
事業所名	グループホーム高須		
所在地	愛知県幡豆郡一色町大字赤羽字北荒子18番地		
自己評価作成日	平成21年10月2日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成21年10月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の運営であり、医療面での迅速なサポートが出来る。介護面ではケアの考え方として、相手に受け止めてもらえる姿勢を大切にし、認知症への知識を習得するために勉強会をおこない、研修等へも積極的に参加しています。又、職員のチームワークも大切に利用者様への適切なケア、環境への支援が出来るよう務めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営しているグループホームのため、日常生活内で体調不良が生じた場合でも母体の病院と連携がとれ、健康面の心配が無く、利用者や家族が昼夜安心して暮らすことが出来る。また、外見もおしゃれな建物だが、ホーム内は天井が高く、ステンドグラスがあり、広い空間があるほか、共有の部分には和室があり、コタツが準備され和風で温かい雰囲気伝わってくる。利用者はのんびり趣味をすることが出来、能力を発揮している。管理者・職員は、日々の生活の中に自分たちが考えた独自の介護理念を掲げサービスが実践されているためか、ホーム内は穏やかさは表情が見られ楽しげな話し声が聞こえている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で作りあげた理念を、業務につく前に読み意識づけしている。	職員が一番出入りする台所と事務所内に職員で話し合い決めた独自の介護理念を掲げ、たえず意識して利用者中心のケアを実践している。また、介護理念に関しても職員間で話し合い新しい理念を取り入れる工夫もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	犬の散歩で寄ったり、近所から野菜のおすそ分けがあるなど、地域住民との交流がある。	母体の医療法人が主催する年間行事として盆踊りや町内会からの御神輿・近隣の高校生がボランティア・法人の合同レク等にて地域の交流を図っている。	より地域とのつきあいが広がるためにも町内会、老人クラブ、婦人会への加入が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を介護する家族会へ出席し、ご家族のお気持ちを知る事により、グループホームで出来る事はないかと考えるが、しっかりとした取り組みまではできない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見は出来るだけ実行し、実施状況の報告を行っている。	年3回(10月・7月・2月)民生委員や行政・家族等の参加で会議が開催され、情報交換が行なわれている。そこで出た意見に対して家族の了承を得て健康福祉課に情報提供をしている。	外部評価軽減要件にも該当しより地域の理解と支援を得るためにも2ヶ月に1回以上の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも、利用者の安全のため利用者様の情報を提供し協力を得ている。(家族了解済み)	運営推進会議で出た意見に対して会議のほかに役場に出向き、地域の協力体制のための情報提供等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、自由な暮らしは基本としている。鍵かけ行っていない。	法人としての指針に身体拘束をしないケアを掲げ、この指針をマニュアルとして職員に勉強会で周知をしている。過去に離設を経験したが、玄関の鍵をかけず職員が見守りしたり声かけをしたりすることで穏やかな生活環境ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成、勉強会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者があり、職員が理解できるように、勉強会を実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容についてご説明し署名、捺印をいただく。料金改定等も、文章と口頭とで十分ご説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の家族食事会等で、意見、要望を伺うが特に出てこない。利用者様からは、「床屋はなじみの所へ行きたい、自分の事をよく分かっている。」との要望あり支援に努めている。又、運営推進会議で報告をおこなう。	家族の訪問時には必ず声を掛け何でも話せる雰囲気を作っている。利用者の誕生月に行う家族食事会は話が弾むので職員は意見、要望等積極的に聴くよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全てのことにに関して、職員と話し合い日々の業務に結び付けている。納得してこそ働く意欲、質の向上につながると考える。	職員から業務に対して提案がある場合は、申し送りノートに記入し、すぐに改善できることは実行したり、月1回の法人全体の会議内で話し合っている。勤務については、話し合いながら早出や遅出をつくり改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は代表者へ職員の状況説明をおこない、それにより、代表者も適した整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員がレベルアップしていくことを期待しており、研修、勉強会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流へは積極的に参加し、交換研修にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望、思いはしっかり受け止め、柔軟な支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族、家族間の関係は重要であり、話をさせていただける時期、状況による対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の継続性のこともあり、必要とする事、要望への相談に応じる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が中心となる生活への支援に努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり来れない場合は、電話で状況を連絡しご意見を伺いお手伝いできるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋、医者等の継続に努めている。	本人、家族から馴染みの人や場所を面談等で把握している。利用者が以前より通院していた歯科医に付き添ったり、昔から通っている喫茶店へモーニングを一緒に食べに行く等関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルがあっても利用者同士で解決できるよう見守る。特に問題なければすぐに中へは入らない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内では連携はとり、家族との相談にも応じ、今後についても支援に努めている。退去で終わりにはしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事等、言葉がなくてもその方の思いを感じとり、思いに添えるよう話し合う。	入居時における情報把握をはじめ、職員は生活記録等から情報を把握し日頃の言動や表情から希望や意向を汲み取る努力をしている。意思表示が困難な場合は家族等からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の継続に務め、地域の中での暮らしに支援に努める。(マッサージ、床屋、洋品店、等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言葉や行動などからもっている力に目を向け、個々の暮らしを考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尊重し、意見を求め計画する。家族からの意見にも反映できるよう務めている。	職員は担当制で情報をきめ細かく把握しており月1回のカンファレンスでケアマネを含めチームで話し合い本人、家族の意向を入れて作成している。見直しは3ヶ月に1回、状態が変化のときはその都度チームで相談し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を振り返り、支援計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所内で出来るサービスや地域への関わりへの支援等、状況に応じた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の紹介によるボランティアの受け入れや、これまでの生活の中で必要としていた馴染みの理容、銀行等への支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同意の上で医療機関を受診している。その他入居前より通院している所はご家族様のご協力により継続されている。	入居前からのかかりつけ医は、継続され家族が受診に付き添っている。受診時はホームから病院に情報提供があり、病院からも返信がある。その他にも嘱託医の往診もあり、利用者は適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の訪問看護師との契約あり連携している。医師の定期的な管理あり。(週1回)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	殆ど事業所内の医療機関への入院であり、病院関係者とは情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化については、家族と話し合いをし、ご本人、ご家族の意向とホームでの対応については、これまで相談しながらの支援をしている。	入居時に、法人としての重度化に対する方針を家族に説明し理解してもらっている。何かあれば、その都度家族と話し合い、ホームで出来る限りのケアを提供している。家族は母体が医療法人ということで安心している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練へ参加しているが、全ての職員までの実施はない。急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	物品は準備している。地域の避難訓練へも一部の利用者ではあるが参加しグループホームの存在を理解してもらえるよう務めている。また、ホーム内でも避難訓練を行っている。地域との協力体制は整っていない。	グループホームとしての避難訓練は年2回を予定し実施している。その他にも年1回の地域の避難訓練(9月の防災の日)に、歩行が出来る利用者数名とともに参加している。災害の備蓄も事務所内に食料品のほか、排泄用品も確保している。	非常口も確保し連絡先も貼っているが、職員が一人の時は不安が大きいと思われるので、夜間態勢を想定した避難訓練も検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた声かけ、配慮等に務めるよう、振り返りながら実行に務めている。	着替えは居室で、排泄時はドアを閉めるなど、日常的なことや職員が気づかないで対応しないように職員同士で声をかけあっている。また、一人の時間がほしい利用者にも居室や和室での対応にも心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションがうまくとれなくても、食事の仕方、入浴等、日頃の関係からくみとるように務めているが、少し足りない所もあるかと思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な対応に務めている。休みたい時間、食事、入浴等、希望に添えるように務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服をこちらで決めず、本人に意思確認している。床屋も気に入る店での支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ出来る事できない事で分担が決まっており、一緒におこなっているが、気分に応じての声かけをしている。	利用者は自分の出来ることに協力し、調理や準備・片付けをしている。また、月1回はバイキングを行い、一つのテーブルを囲んで楽しく食事をしたり、外食やバーベキューをすることもある。メニューも利用者と話し合いながら決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味、刻み等の工夫や自己にて水分の取りにくい方への支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での能力がある方へは、足りない部分の介助。出来ない方は声かけし介助しながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着の付け心地等を考えており、可能な限りトイレ介助を目指している。リハビリパンツで入居されて方が、下着で生活されている例がある。	尿意のある利用者は、自分のペースでトイレに行っているが、さり気なく見守りをしている。尿意等のない利用者には、時間での誘導のほか、行動をみて声かけをしている。尿量の多い方についても声かけの回数を増やすなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、活動的な生活を支援し自然な排泄に努めている。下剤の量が少なくなった例もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の思いに添った支援に努めている。日時も職員の配置時間内で柔軟な対応をしている。	毎日13時から19時30分まで自由な時間に入浴が可能である。午後に外出する予定の場合は、午前中に入ることもできるほか仲のよい利用者同士と一緒に入浴することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりになったほうが落ち着く場合、皆と一緒に良い場合等、個々に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員で薬の管理をし理解している。誤薬を防ぐため他の職員と確認し合い服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人に指示されない自分の意思で生活できるような支援に努める。役割や楽しみ事で生きている暮らしをしていただきたいと考える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域の中のホームであるので、今までの生活に関係してきた人、場所等の外出支援をしている。散歩等近所の方の支援もある。	近所の方が犬の散歩時に立ち寄ってくれ、利用者と話したり、一緒に散歩に行くこともある。また、本人の希望で近くの海を見に出かけたり魚市場に行ったり、喫茶店や洋品店で買い物等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人との相談の上お小遣いを預かり欲しい物の買い物をしていただいている。出納帳を用意し、買い物後の金銭確認はご本人と家族に確認、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で出来る事は支援に努めており、手紙、電話共に希望に添うようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂は寛げる場所をご自分なりに見つけている方もいる。トイレは個々のリズムもあり他の方との兼ね合いも考えながら支援しており、特のトラブルは発生していない。	明るく広い共有の空間には、窓が大きく作られ柔らかな光が降り注ぎ真ん中には大きなテーブルが置かれている。天井が高く温度調節が大変だが職員は様々な工夫をしている。和室にコタツを置いてあり、洗濯物をたたんだり家庭的な癒しの空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況を見て、こちらで場所作りをしたり、和室や事務室を利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い勝手の良いように配慮している。衣類や物の配置もご本人の意思を尊重している。雰囲気作りのためご家族とも相談しているが、もう少し働きかけていきたい。	荷物は少ないが、利用者は家族と相談し使い慣れた家具やベッドの配置場所を工夫してレイアウトしている。家族の来所時には、居室で壁に貼ってある孫の写真を見ながらゆっくり過ごすことができ居心地の良い空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印やその都度のご説明によりさりげないサポートに努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム高須

## 目標達成計画

作成日: 平成21年11月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日中の避難訓練は行っているが、夜間を想定した訓練の実施がない。	日中、夜間の避難訓練年間計画表を作成し実施していく。	職員の役割分担を決める。	12ヶ月
2	2	地域との交流が不足している。	地域の行事等へ参加し、交流を図りたい。	保育園、小学校等の行事へ出掛ける。	12ヶ月
3	4	運営推進会議の開催回数も少なく、情報交換の機会があまりない。	運営推進会議以外でもメンバーの方との連携を図っていきたい。	運営推進会議を年6回以上開催していきたい。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月